

世の中からの信認にお応えしていくために

平成17年4月25日、当社は、福知山線塚口・尼崎駅間において、106名のお客様の尊いお命を奪い、500名を超えるお客様にお怪我を負わせてしまうという、極めて重大な事故を惹き起こしてしまいました。ここに改めまして、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々とそのご家族の皆様に対し、心から深くお詫び申し上げます。

また、平成21年9月には福知山線列車事故に関する航空・鉄道事故調査委員会における調査の過程で、役員等が同委員会の委員の方々に対する情報漏えいの働きかけ等を行っていたという事実が判明いたしました。今回の問題は社会的責任を有する企業としてあるまじき行為であり、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々とそのご家族の皆様、関係するすべての方々に対し、重ねて深くお詫び申し上げます。

「企業理念」に立ち返り、風土改革を推進

今回の問題で、私たちは何よりも、福知山線列車事故を機に、安全を最優先する企業風土を構築するため、全社員で議論を重ねて制定し、世の中に宣言した、当社の目指す姿、大切にしている価値観である「企業理念」を守れなかったことを深く反省しています。

このような行為を二度と起こさないよう、まずは経営トップ自ら今回の行為を行ったことを重く受け止め、役員間で課題認識及び今後取るべき行動について議論を重ねて「誠実」「謙虚」「自律」という3つの価値観を抽出し、役員員の行動規範を新たに制定しました。全役員がこれを共有し、言行一致を旨に、率先して「企業理念」を実践してまいります。あわせて、取締役会の監視・監督機能をはじめコーポレート・ガバナンスを強化し、制度面からも再発防止策を実行してまいります。

また、当社は事故直後から世の中の皆様にご不信を抱かせる様々な行為を繰り返してきました。これらについて改めて振り返ると、今回と共通する課題、すなわち自己中心的で社会の常識と乖離した風土、社内の風通しが悪く自由に物を言えない風土が根底にあると考えています。こうした悪しき企業風土を抜本的に変革し、会社を再生していくことが私の使命であると考えています。

現場重視、技術重視を軸に「経営の三本柱」を実行

取り組みにあたっては、従来から経営の最重要課題として掲げてきた「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」の三本柱は変わりません。ただし今回の反省に立って進め方やスピードを変えてまいります。特に今回の行為により、被害に遭われた方々のご心情を深く傷つけてしまったことを深く反省し、改めて事故に正面から向き合うこと、ご被害者と真摯に向き合うことをしっかり実践してまいります。

そのうえで、私は、安全最優先を前提に、現場重視、技術重視に徹底してこだわりたいと思います。ここでいう現場重視とは、当社の事業活動のほとんどすべてが世の中との接点である現場で行われており、そこで働く社員の意見や提言を経営情報と捉え、積極的に施策に反映していくことです。また、技術重視とは、技術を社員のスキルを含めた幅広い意味で捉え、世代交代が進むなか、過去から経験で積み上げてきた鉄道技術を着実に継承するとともに、世の中のニーズの高度化にあわせて向上させていくことです。この二点を軸に施策を具体化し、実行してまいります。

JR西日本の存在意義を自覚し、考動とチームワークでCSRを推進

当社は昨年1月に「企業考動報告書」を初めて発行し、「企業理念」の実現を目指し、世の中と誠実に向き合い、CSRに本格的に取り組んでいくことを宣言したところですが、私は、今回の事態をふまえ、取り組みを一層加速させたいと考えています。

鉄道会社である当社は世の中からの「信認」により存在を許されており、また地域から離れては存在しえません。そうした存在意義、ひときわ重い社会的責任を強く自覚し、世の中と共生していくという発想に立って事業活動を行ってまいります。当社では、世の中から求められていることとして、安全やCSをはじめ11の重点分野を定め、CSRに取り組んでいますが、今回の問題を機に、世の中と向き合う姿勢や考え方を改め、世の中が何を求めているかについて感度を高め、11の重点分野を中心に、日々の活動の中で至らざる点の一つひとつ改善してまいります。

その際、企業を構成するのは一人ひとりの社員であり、それぞれが自覚と責任を持って、自ら考え行動する、「考動」の輪を広げていきたいと思っています。この報告書を変革の起爆剤とし、一人ひとりが、自分の仕事が世の中と直接結びついていることを強く意識し、日々の業務の中で世の中を向いて一歩踏み出す動きをつくり出したいと思っています。

また、鉄道は多くの社員が一体となってシステムとして運営しており、仕事を進めるうえでは相互の連携が不可欠です。私は皆がお互いを思いやり、チームワークを大切にする風土を醸成することで組織力を高めたいと考えており、まずは社内で自由に物の言える雰囲気づくりを進めてまいります。「企業理念」の「企業」という言葉には会社・役員・社員が一体となって取り組んでいくの思いを込めており、これらCSRの取り組みを進めるうえでもその精神を大切にまいります。

安心、信頼され、働きがいと誇りの持てる JR西日本を目指して

当社にとって、これからの1年間が正念場であります。昨年12月には私が本部長を務める企業再生推進本部を1年間の期限を設定したうえで設置しました。この本部を中心に、不退転の決意で、スピード感を持って企業再生に向けた具体策を実行してまいります。

取り組みの主役は社員一人ひとりです。私を先頭に全役員・社員が、当社の原点である「企業理念」に立ち返って、自分の仕事が世の中とつながっているという思いを強く持ち、皆様と対話しながら、世の中からの信認にお応えできるよう、元気で前向きな考動を重ねてまいります。そして、必ずや世の中から「安心、信頼され」、社員が「働きがいと誇りの持てる」、JR西日本に生まれ変わらせます。

平成22年3月

代表取締役社長

佐々木 隆之

